別紙様式２

平成 25 年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市 町 村 名　　吹　田　市
実践研究校名　　桃山台小学校

【公開授業】公開日：平成２５年１２月６日
対象学年：第６学年

（教材・教科書名） Hi, friends!　Lesson 6 （単元名） What time do you get up? 自分の一日を紹介しよう	（本時の指導の目標） ・積極的に自分の一日を紹介したり、友だちの一日を聞き取ったりしようとする。 ・生活を表す表現や、１日の生活についての時刻を尋ねる表現に慣れ親しむ。 ・世界には時差があることに気付き、世界の様子に興味を持つ。

（本時の授業において工夫した点）
- 時差早見表を児童ひとりひとりが作成し、日本と外国の都市との時差を目で見て感じ取れるようにした。
- 教員が情報機器（スカイプ）を使ってフィリピンとスイスに電話をかけ、児童が習った英語の表現を実際に使える場面を設定した。
- 担任と AET と中学校の英語科教員の３人がそれぞれ役割を担い、国際電話のデモンストレーション等、児童にわかりやすく提示できた。

（授業を終えた教員の感想）
- 小学校と中学校の教員が連携し、児童に英語を使う必然性のある場面をうまく設定することができた。
- 小学校担任と AET がデモンストレーションする場面を中学校教員がサポートすることで、児童にとってよりわかりやすい授業をすることができた。
- 情報機器（スカイプ）を活用し、リアルタイムで世界とつながっていることを実感させることができた。
- 時差だけでなく、スカイプの画面からフィリピンやスイスの気候なども知ることができ、外国と日本の違いを短時間で理解できた。

【研究協議会】

(テーマ) 外国語活動から英語科へのスムーズな連携と9年間のカリキュラム研究	(指導・助言者) 大阪成蹊大学 マネジメント学部マネジメント科 学部長　國方　太司　先生

（研究協議会で出された意見）

- 小５，小６、中２の３つの授業に一貫性があると感じられた。それは、相手とコミュニケーションを図ろうとすることに主眼を置いて指導している点である。
  小６は、難しいといわれている歌もしっかり歌えているのを見て、なるほどと思った。
- スカイプの導入は、とても子どもの興味を引いていた。また、知らない外国の人（初対面の外国人）と話すという経験は、コミュニケーションの素地を養うという点で、非常に効果的だと感じた。
- 工夫された教具等で、生き生きと活動をしている子どもたちが、とても印象的だった。
- 「英語を使う」ということへの抵抗はとても少なく AET とも積極的に関わることができていた。
- AET や中学校の先生との連携がすばらしかった。小学校の担任が苦手とするところを中学校の先生が上手くカバーしているように思えた。こういった学校体制がうらやましく感じた。

（まとめ）

１．小学校での英語に対する音の気付きを生かして、音の作り方をわかりやすく教え、日本語と英語の音の違いを理解させる。
２．文字認識に個人差があることを踏まえて、文字指導を丁寧に、計画的に行う。
３．聞いて理解でき、言えるようになってから「読む」「書く」に進むという指導手順を守る。日本語での説明は簡潔に短く。
４．コミュニケーションはメッセージのやりとりであることを意識して、コミュニケーションと結びつく文法指導と習熟練習を行う。
５．小学校で培った気付きや発見をさらに生かして、発達段階に応じて日本語と英語の様々な違いや文化の違いに気付かせ、考えさせ、社会的な問題に対して積極的に関わる態度を養う。
６．類推しながら学習する、英語を使いながら学ぶために、以前よりレベルをあげたリスニング活動や表現活動に取り組む。
７．様々な社会資源を利用して、英語を学ぶ方法を紹介し、家庭学習の仕方を指導する。